

平成23年度
市民文化祭の受賞者

短歌の部

県教育委員会賞 藤井 千代

完成の間近き子の家見上げつつ

ひとりよがりのシナリオ描く

県文連賞 加藤美代

くつきりと水着の跡の残る孫

かすかな胸のふくらみの見ゆ

市長賞 浅井 浩

抗癌剤のまずに三年生き延びて

迎ふる春節けさ暖かし

市議会議長賞 吉見 稔子

台風に倒れしままにて脇芽立つ

向日葵あまた点ること咲く

市教育委員会賞 斎藤恵美子

エコーにて確かなる鼓動伝わりぬ

やさしき医師の瞳は温し

市教育委員会賞 手嶋 文子

見し夢に心重たくいでてこし

厨に朝のひかり満ちみつ

市文化協会賞 伊藤 伸

麻痺のある夫を残し夕はやく

クラス会に出づ心ひそめて

市文化協会賞 石田 文子

台風に軋む雨戸を引き出せば

蟬一匹すでにこもれり

俳句の部

○募集句

愛知県文化協会連合会賞 金澤 房子

命綱たぐりて終わる松手入

市長賞 小田 寛二

敬老会生きて居たかと酒注がれ

市議会議長賞 大場 安子

夏逝くや駅に古りたる潮暦

市教育委員会賞 市川正一郎

洗い場は海女の社交場もづ日和

市文化協会賞 市川美智子

繰り言の聞き役に慣れ法師蟬

中日新聞社賞 小田 澄子

手を打って仔牛をしかる秋爽やか

中日新聞社賞 牧原 克子

カンナ燃ゆ乾ききつたる捨小船

俳句の部

○当日句

県教育委員会賞 宮瀬 玉泉

限取のあれが我が子か村芝居

市長賞 市川美智子

再入院ためらう母のシヨール編む

市議会議長賞 三浦くに代

鯊を焼く行儀よく待つ猫の鼻

市教育委員会賞 佐藤さよ子

田じまひの紫煙一すじ恵那の里

市文化協会賞 大竹 正泰

落葉掃く学僧余白の無い日課

中日新聞社賞 市川 和代

冬隣味噌汁の味少し濃く

中日新聞社賞 小田 静生

初恋とは違うときめき菊匂う

詩吟の部

市長賞 浅井喜代子

県議会議長賞 神谷 幹夫

県文連賞 大田 治

市議会議長賞 小林 堅次

市教育委員会賞 鈴木 京子

市文化協会賞 佐藤 悦代

菊花の部

県知事賞

県議会議長賞

県文連賞

市長賞

市議会議長賞

農業協同組合長賞

商工会議所会頭賞

中日新聞社賞

市教育委員会賞

市文化協会賞

杉浦たね子
福井 敬子
羽田喜久司
鈴木 定雄
金沢三千代
稲吉 アキ
飛田 正年
河井 宏幸
西浦小学校
北部小学校
山口 一弘
榊原 徳子

平成23年度文化財めぐり

二条城・三十三間堂・養源院

小春日和の十一月十六日（水）、一〇五名の参加を得て、文化財めぐりのバス三台は京都を訪れた。

鶯張りの国宝二の丸御殿を見学。手入の行き届いた二の丸庭園、本丸庭園を抜け、清流園にてお抹茶を頂きながらもみじが色づき始めた庭にてしばしの時を過ごす。

昼からは蓮華王院へ、仏さまの身長と同じ丈六に作られたという千手観音



江の墓



二条城唐門前

坐像、湛慶82歳の作といわれるその迫力に驚く。一〇〇〇一体の千手観音立像は、124体の創建当時の観音様があるとか、その観音様を探しながら、風神・雷神像、二十八部衆と見ているうちに時間が無くなってしまう三十三間堂の周りには見ることなく、集合場所に向かう。

次は道路を挟んで東向かいの養源院へ。ここは、秀吉の側室淀君が父・浅井長政の追善供養のため建立、お江が再興したお寺と言われ、住職の話慣れた口調で、血天井や俵屋宗達の杉戸絵、特別拝観の「江」「淀」「秀頼」の肖像画の掛け軸が紹介された。そのあとお寺の奥にある、崇源院（江）のお墓にお参りをして、旅行の無事終えることを願って帰途につく。

（鈴木康祐）